

庭の力

上野 京子 福島県石川郡 六十七歳

庭に降り立つと、心が癒され、安らかな思いに満たされるのは、なぜなのでしょう。祖父母も父母も今は亡いのに、巡り来る季節の折々に、皆が帰ってきて、一緒に庭を楽しんでいるような気がするの、なぜなのでしょう。

庭には、過去のたくさんの思い出がある。静かに庭に向き合うと、それらの思い出が、鮮やかに脳裏に浮かんでくる。

祖父母が近所のお年寄と共に楽しんだ、つつましいお花見。我慢強く、穏やかだった祖母が、氏神様に手を合わせて祈っていた姿。

数年前、私は大きな手術を受けた。手術日は、奇しくも祖母の命日だった。手術への不安におびえる私に、姉は言った。

「大丈夫。ばっばさんが必ず守ってくれる」

私は六時間に及ぶ手術を乗り切れたのだった。

庭の樹木や草花にも、思い出は宿っている。

父が死の前年に植えておいてくれたクロッカス。冷たい風の中で凜と咲く小さな花は、父の死から立ち直れないでいた私の心を、どれほど慰めてくれたかわからない。ツワブキは、私の娘の七五三の準備を全て調べて入院した、母の深い愛の思い出につながっている。東日本大震災の後、意気消沈した私の前に、前年と同じように花開き、希望をよみがえらせてくれたのは、山菜萸の黄色い花だった。

庭には、よみがえりの力がある。思い出をよみがえらせ、懐かしい心呼び覚ます。それが癒しや安らぎとなり、人の心に励みや希望を与えてくれるのではないかと私は思う。